

アンケート・ワークショップ等から見る市民の意向

1 浅口市について

- 7割以上の市民が「住みやすい」と感じており、気候が穏やかで自然災害が少ないところや自然が豊かな点を魅力と感じている人が多いことがわかります。
- 市民が考える「住みよさ」のポイントとしては、浅口市の強みである自然災害の少なさや豊かな自然環境に加え、まちの賑わいや買い物の利便性を求める声が多く聞かれました。
- 一般的に、人口減少を抑制するためには、出生数の増加、転入の増加、転出の抑制に対応する取組が必要となりますが、市民の考える市が取り組むべき人口減少対策としては、「子育て支援」や、出産の前提となる「結婚への支援」、「雇用の創出」を望む意見が多くなっています。
- これらの取組を進めるに当たっては、市民が浅口市の魅力と考える「災害の少なさ」「豊かな自然環境」をはじめ、多様な地域資源、特性を踏まえた、『浅口らしいまちづくり』の検討も重要となります。

2 雇用について

- 雇用については「企業誘致の推進」を求める意見が非常に多かった一方で、外部の力に頼らず、「地元企業を育成」するような支援をしてほしい、といった意見もみられます。
- また、20代～30代の若い世代では、人口減少対策における「企業誘致の推進」の優先度はそれほど高くなく、ワークショップでも「近隣の市町に就業、住むのは浅口市」、「ベッドタウンとして住みよさの向上を図っていくべき」などの意見が多く聞かれました。
- また、地域コミュニティにおいて問題となっている耕作放棄地の活用を含め、基幹産業の一つである農業の振興を望む意見も多くなっています。

3 移住・定住、観光・交流について

- 浅口市は住みやすいと感じている市民が非常に多い一方、「生活をするのに不便（買物・交通等）だから」「まちに活気がないから」「働く場所がないから」といった理由から市外へ引っ越す市民がいる状況です。
- 前述の雇用の創出に加え、「地場産業の活性化・PR」や「空き家の活用」を望む意見が多くみられます。
- 天文台については、浅口市の観光のメインという意見がある一方、「アクセスが

悪いことが問題」といった指摘もみられます。

○また、「土産物の開発」や「浅口の特産品が食べられる飲食店」、また、それらをまとめた場所（道の駅や既存の駅周辺）の設定が必要という意見がみられます。

4 結婚・妊娠・出産・子育てについて

○結婚については、結婚の希望があっても「出会いの場がない」ことや「経済的な理由」から結婚に至らないことが問題としてあげられており、「婚活イベントの実施」や雇用の創出を含めた「生活基盤の確保」が求められています。

○妊娠・出産・子育てについては、「経済的な支援」を求める声が特に多くなっているほか、「保育施設の充実」や「仕事と家庭の両立支援」を求める意見が多くなっています。

5 地域コミュニティの活性化、まちづくりについて

○社会的な少子高齢化・人口減少が進行している中で、浅口市の地域コミュニティにおいても「高齢者のみの世帯の増加」「子ども・若者の減少」、また「農業の衰退（耕作放棄地の増加）」といった問題が顕著となっています。

○まちづくりについては、人口が減少し地域コミュニティの在り方が変わっていく中で、「世代間・地域間の交流」が重要であり、そのためには「相互の歩み寄り」が必要という意見が多くみられます。

○具体的には、だれもが参加できる、参加したくなるような「イベント（もちつき、祭り、地域対抗の運動会等）の開催」、「新しい移住者への声掛け」といった意見がみられます。

○また、少子高齢化・人口減少が進む中、自主防災組織の設立やその活動、祭りや敬老会、サロン等での多世代交流、通学児童の見守りなど、活性化や子育て支援に取り組んでいるコミュニティも数多くあります。

○こうしたコミュニティ活動について市に求める支援としては、補助金などの直接的な支援のほか、情報提供や地域間交流の促進、相談窓口の設置などの意見がみられます。